

で2カ月しか反映されない。全国のプライスリーダーのホクレンには、もっと早く高く交渉してほしい」と声を強めた。

今後も乳製品向けの乳価交渉は続くが、在庫が積み上がる中でメーカーとの協議は厳しいとみられる。士幌町の60代男性は「期中改定はありがたいし、乳業メーカーも大変だろう。しかし、餌代はまだ上がる」と語り、国の加工原料乳生産者補給金の期中改定も含めた対応を求めた。

十勝酪農畜産対策協議会の坂井正喜会長（JA大樹町組合長）は「生産現場のコスト増に十分に対応できる金額ではない」としながら、商品に価格転嫁された後の消費の動きも懸念する。資材高騰と需給緩和のダブルパンチにあえぐ酪農業界。「現場は自給飼料などでコスト低減を図るが、国にも補給金の改定などで応援してほしい」と語った。

山岸さん（士幌）出品牛 全道一

2022年10月1日（土）

北海道ホルスタインナショナルショウ 美しさと乳用性が評価

乳牛の改良や育成技術を競う2022北海道ホルスタインナショナルショウ（北海道ホルスタイン農業協同組合主催）が9月24、25の両日、胆振管内安平町で開かれ、士幌町佐倉の山岸剛さん（38）の出品牛が、最高位のグランドチャンピオンに輝いた。乳用性と美しさを兼ね備えた牛として、全出品牛約320頭の頂点に立った。

コロナ禍で中止したため3年ぶりの開催になった同大会には、道内の地区予選を勝ち抜いたホルスタイン種とジャージー種が出品された。月齢や年齢などでホルスタイン種は16部、ジャージー種は4部に分かれて競った。

グランドチャンピオンになった山岸さんの牛は、シニア3歳クラス（42～48カ月未満）に出品した「サクランド ドアマン ロケット E T」。同クラスの1等1席になり、全クラスから選ばれるグランドチャンピオンに輝いた。

◆「今までで一番の牛」

十勝総合畜産共進会乳用牛の部（8月23日、音更町）で十勝一になって臨んだ大会。22歳で家業の酪農に就いて共進会に出品してきた山岸さんが「乳用性がよく、3歳クラスにしては充実したフレームを持っている。今までで一番いい牛ができた」と評価する牛。丈夫な体形に、前乳房が長いなど高い資質を備えた。

審査した十勝家畜人工授精所フィールド調査部（帯広）



十勝総合畜産共進会を制し、初の全道一に輝いた山岸さん（中央右）と出品牛

の児玉辰司次長は「美しいだけでなく、たくさん搾っても壊れない生産性を持っている。飼料が高騰する中、効率よく仕事をしてくれる牛で、群を抜いていた」と振り返る。

◆次は全共が目標

管内の共進会では最高位の経験はあるが、全道レベルでは初めて。十勝チャンピオンとして臨み、周囲の期待が大きくて重圧を感じただけに、「最高位が取れてうれしい」と喜びを語った。

過去2年間はコロナ禍で各種共進会が中止になる中、「賞があってもなくても変わらず同じ管理を続けてきた」とモチベーションを落とすことなく飼育管理に努めた。2025年に安平町で開かれる全日本ホルスタイン共進会（全共）を目標の一つに掲げ、「まだ全共に出たことがないので目指したい。今回に満足せずにいい牛をつくりたい」と話していた。

その他の部門チャンピオン、各部の1等1席入賞者は次の通り。（関係分、敬称略）

◇ホルスタイン種

- ▽リザーブグランドチャンピオン＝今村慎吾（更別村）
- ▽ジュニアチャンピオン＝森淑嗣（中札内村）
- ▽インターミディエイトチャンピオン＝山岸剛（士幌町）
- ▽シニアチャンピオン＝田中牧場（清水町）
- ▽リザーブインターミディエイトチャンピオン＝今村慎吾
- ▽第1部＝田中牧場
- ▽第2部＝田中牧場
- ▽第5部＝小椋直樹（上士幌町）
- ▽第6部＝佐藤孝一（広尾町）
- ▽第7部＝森淑嗣
- ▽第9部＝小原潤哉（音更町）
- ▽第10部＝熊谷肇（上士幌町）